

令和 3 年

北海道特用林産統計

令和5年3月

北 海 道

目 次

● 〈概要編〉

I 国内の主な特用林産物の生産動向	1
II 北海道の主な特用林産物の生産動向	
1 きのこと類	2
2 木炭・木酢液	3
3 薪	4
4 山菜類	4

● 〈資料編〉

I 特用林産物全般	
1 主要特用林産物生産量及び生産額の推移	5
2 主要特用林産物の都道府県別生産順位	6
3 主要特用林産物生産量の推移（全国対比）	7
4 特用林産物生産額の推移（全国対比）	8
5 主要特用林産物生産者数の推移	8
II きのこと類	
1 生しいたけの月別生産量	
（1）原木栽培	9
（2）菌床栽培	9
（3）生しいたけ合計	9
2 生しいたけ生産量における原木栽培と菌床栽培の割合の推移	9
3 生しいたけ生産規模別生産者数の推移	9
4 生しいたけ生産者の職業別内訳の推移	
（1）原木栽培	10
（2）菌床栽培	10
（3）生しいたけ合計	10
5 しいたけ原木の調達ルート	10
6 しいたけ原木価格の推移	10
7 しいたけ原木伏込量の推移	11
8 菌床製造用おが粉の調達ルート	11
9 しいたけ菌床ブロック等の調達の推移	11
10 主なきのこと類の出荷先内訳	11
11 道内主要市場における主なきのこと類の産地別入荷動向の推移	12
12 一世帯当たりきのこと消費量の推移（二人以上の世帯）	12
III 木炭等	
1 木炭等用途別生産量の推移	13
2 木炭等品目別生産者数及び窯数の推移	13
3 木炭輸入量の推移	13
4 その他木炭等の生産量の推移	13
IV 山菜類、その他	
1 山菜類生産量の推移	14
2 道内主要市場における主な山菜類の産地別入荷動向の推移	14
3 その他の特用林産物の生産量の推移	14

V	令和3年主な特用林産物の市町村別生産量順位	15
VI	令和3年主な特用林産物の振興局別生産量	16

＜特用林産物とは、＞

主として山林原野において産出されてきた産物で、きのこ類、山菜類、薬用植物、果実類、樹脂類、木炭、薪及び桐など、一般用材以外のものをいいます。

（注）

平成30年からの統計調査結果より、調査対象者数が2以下の場合には、個人又は法人その他の団体に関する調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「X」表示とする秘匿措置を施しています。

なお、全体（計）から差し引きにより、秘匿措置を施した当該結果が推定できる場合は、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「X」表示しています。

こちらの秘匿措置は林野庁作成の特用林産基礎資料と同様の取り扱いとしています。

<概要編>

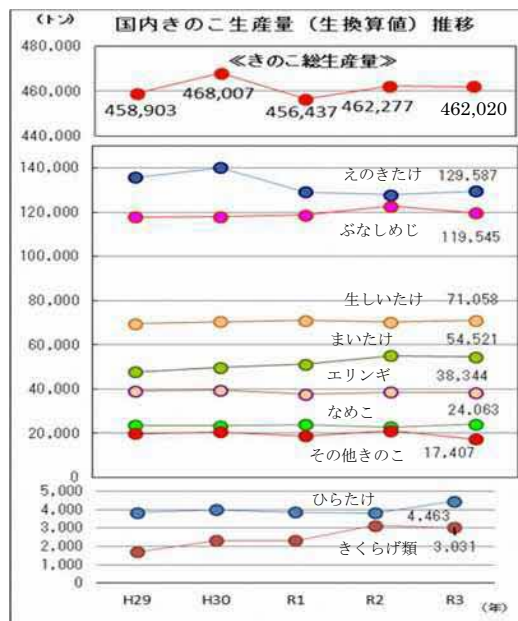
I 国内の主な特用林産物の生産動向

1 きのご類

令和3年のきのご類生産量は462,020トン(前年比99%)で前年とほぼ横ばいであった。

品目別では、「生しいたけ」「なめこ」「えのきたけ」「ひらたけ」は増加しているものの、「ぶなしめじ」「まいたけ」「エリンギ」「きくらげ類」「その他きのご」は減少している。品目別の生産量は、「生しいたけ」が71,058トン、「なめこ」が24,063トン、「えのきたけ」が129,587、「ひらたけ」が4,463、「ぶなしめじ」が119,545トン、「まいたけ」が54,521トン、「エリンギ」が38,344トン、「きくらげ類」が3,031トン、「その他きのご」が17,407トンとなっている。

都道府県別では、長野県、新潟県、福岡県、北海道、宮崎県、がきのご類の主産地となっている。

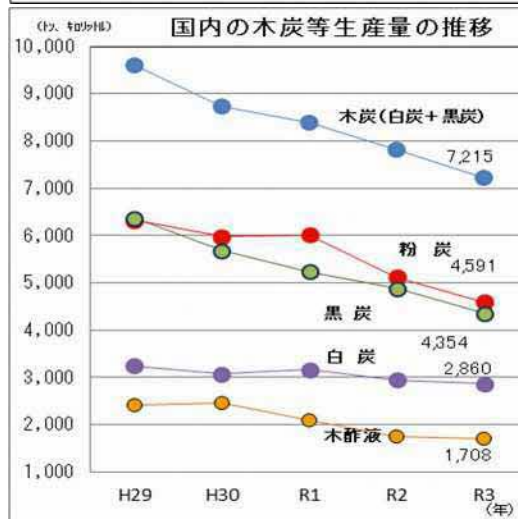


2 木炭等

令和3年の木炭(白炭+黒炭)生産量は、7,215トン(前年比92%)で、前年より減少しており、品目別でも全て前年より減少している。

品目別の生産量は、最も多い「粉炭」が4,591トン、「黒炭」が4,354トン、「白炭」が2,860トン、「木酢液」が1,708キロリットルとなっている。

都道府県別では、「木炭(白炭+黒炭)」が岩手県、高知県、和歌山県、北海道、大分県、「粉炭」が島根県、奈良県、岐阜県、長野県、宮崎県、北海道、「木酢液」は岩手県、宮崎県、静岡県、熊本県、福島県、鹿児島県、北海道が主産地となっている。



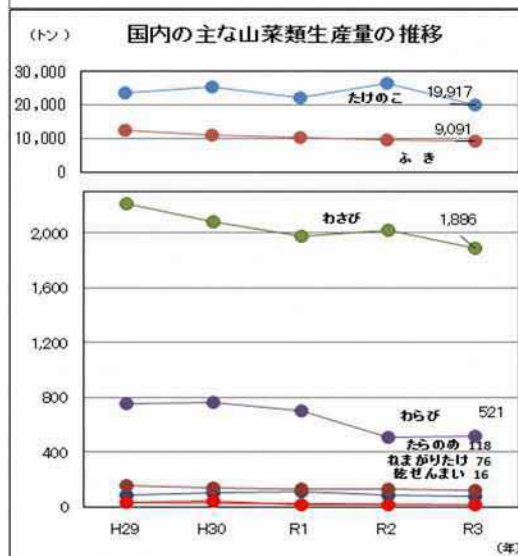
3 山菜類

山菜類の生産量は、天候に左右されやすく、品目によって増減にバラツキがあるという特徴があるなかで、「たけのこ」と「ふき」が大部分を占めている。

令和3年の品目別の生産量は、「たけのこ」が19,917トン(前年比75%)で前年より減少している。

以下、「ふき」が9,091トン、「わさび」が1,886トン、「わらび」が521トン、「たらのめ」が118トン、「ねまがりたけ」が76トン、「乾ぜんまい」が16トンとなっている。

都道府県別では、福岡県、鹿児島県、愛知県、京都府、熊本県が山菜の主産地となっている。



4 その他

上記のほか、全国各地で「くり」、「くるみ」、「竹材」、「桐材」、「薬草類」などの特用林産物が生産されている。

II 北海道の主な特用林産物の生産動向

1 きのこ類

北海道では主に、「生しいたけ」のほか、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「まいたけ」、「なめこ」などのきのこが各地で生産されており、令和3年のきのこ類の都道府県順位は、長野県、新潟県、福岡県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数のきのこの生産地となっている。

品目別では、「たもぎたけ」が全国第1位、「生しいたけ」が第2位、「なめこ」及び「まいたけ」が5位となっている。

(1) 生産量

令和3年のきのこ類生産量(生換算値)は17,091トン(99%)で、前年とほぼ横ばいであった。

品目別では、「生しいたけ」、「乾しいたけ」は前年より増加しているが、しいたけ以外のきのこは前年と横ばい、もしくは減少している。

地域別では、胆振、上川地域が主産地となっており、この2つの地域で道内生産量の約80%を占めている。なお、「生しいたけ」の生産量は、約97%が菌床栽培となっている。

(2) 生産額

令和3年のきのこ類生産額(推計値)は約100億円(前年比97%)で、前年よりも約2億円減少している。これは令和3年、「しいたけ」「なめこ」「えのきたけ」「ひらたけ」以外のきのこの市場での取引量が減少したことが要因である。品

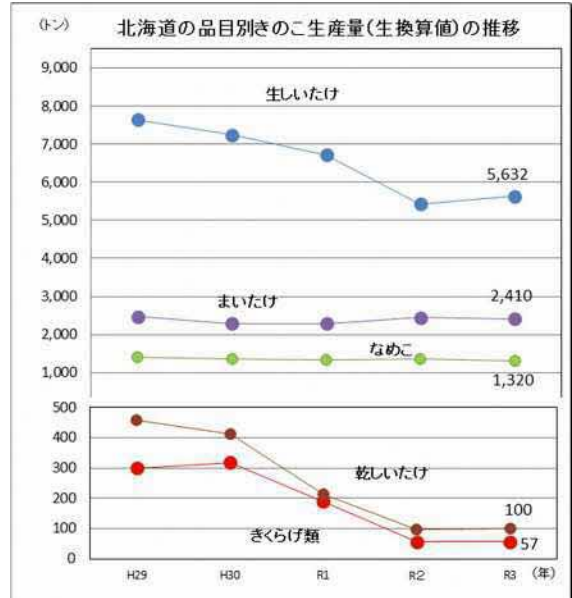
目別では、「生しいたけ」は約8千万円(前年比102%)「なめこ」は約3千万円(前年比105%)「えのきたけ」は約4千万円(前年比104%)増加した。

「ぶなしめじ」は約1億7千万円(前年比91%)「まいたけ」は約1億5千万円(前年比91%)、「エリンギ」は約4千万円(前年比91%)と「たもぎたけ」は約5千万円(前年比87%)、前年より減少している。

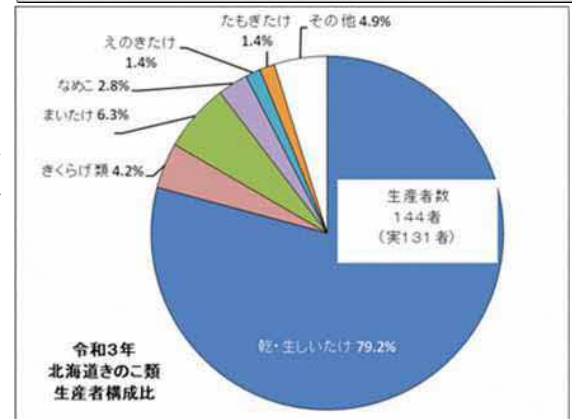
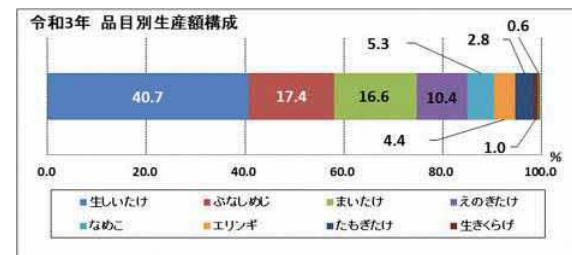
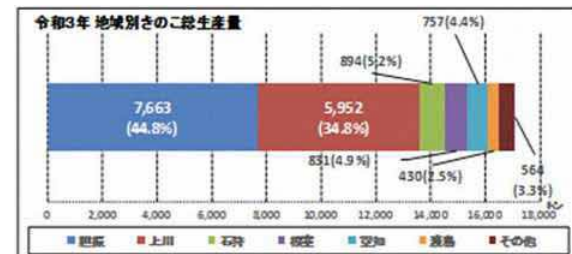
また、生産額全体に占める割合を品目別で見ると、「生しいたけ」が40.7%、「ぶなしめじ」が17.4%、「まいたけ」が16.6%、「えのきたけ」が10.4%、この4品目で全体の約85%を占めている。

(3) 生産者数

令和3年のきのこ類の延べ生産者数は、144者と前年よりも15者減少し、実生産者数も131者と前年より11者減少している。品目別の延生産者数に占める割合は、「乾・生しいたけ」が114者(原木栽培42者、菌床栽培71者)で77.9%、以下、「きくらげ類」が6者が4.2%、「まいたけ」が9者が6.3%、「なめこ」が4者で2.8%となっている。



上記グラフでは、えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギ、たもぎたけ、えぞ雪の下、ひらたけは秘匿措置としているため未表示。



2 木炭・木酢液

北海道では、古くから木炭(白炭と黒炭)が燃料用として各地で生産されてきたが、「白炭」は平成 22 年以降生産されていない。

令和 2 年の木炭(白炭と黒炭)生産量の都道府県別順位では、岩手県、高知県、和歌山県に次ぐ全国第 4 位に位置し、全国でも有数の木炭生産地となっている。なお、「黒炭」のみの生産量は岩手県に次いで全国第 2 位となっている。

また、木炭以外では、主に農業用(土壌改良等)に利用される「粉炭」や、農業・家庭園芸用(土壌改良や植物活性等)のほか入浴剤など多方面で用途が広がっている「木酢液」も生産されている。

(1) 生産量

〈木炭(黒炭)〉

令和 3 年の木炭生産量は 639 トン(前年比 78%)で、前年よりも 180 トン減少している。

地域別では、釧路、十勝、胆振、渡島地域が主産地で、この 4 地域で全道生産量約 96%を占めている。

〈粉炭〉

令和 3 年の粉炭生産量は 230 トン(前年比 63%)で、前年より 138 トン減少している。

地域別では、上川、十勝地域が主産地となっている。

〈木酢液〉

令和 3 年の木酢液生産量は 27kℓ(前年比 49%)で、前年より 28kℓ減少している。

地域別では、十勝、渡島地域が主産地となっている。

(2) 生産額

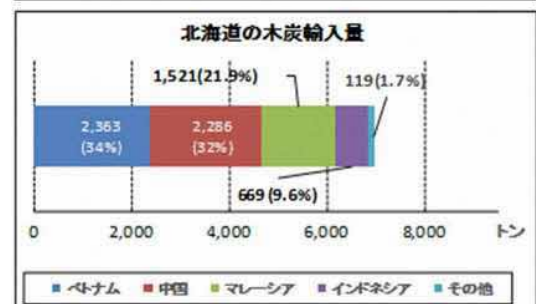
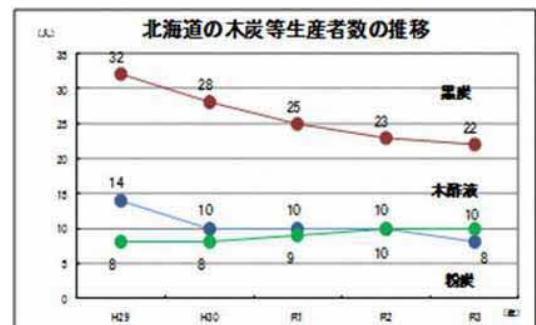
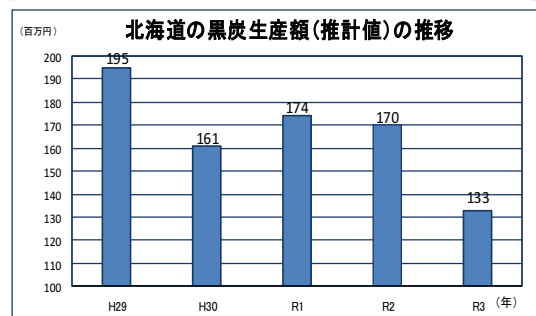
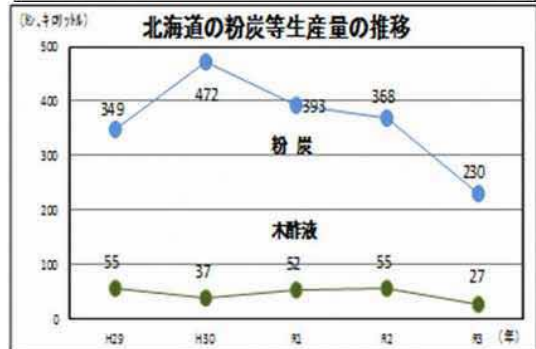
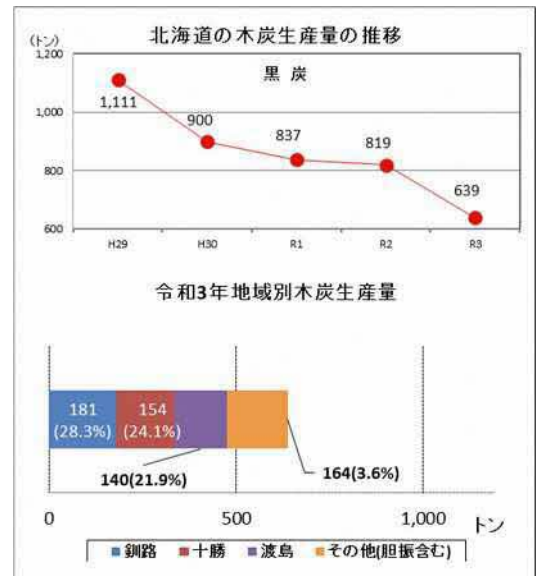
令和 3 年の木炭生産額は約 1 億 3 千万円(前年比 78%)で、前年より約 4 千万円減少している。

(3) 生産者数

令和 3 年の木炭等生産者数は、木炭(黒炭)が 22 人で前年より 1 人減少、「粉炭」は 8 人で前年から 2 者減少、「木酢液」は 10 人で前年と同数となっている。

(4) 木炭の輸入

令和 3 年の木炭輸入量は 6,958 トン(前年比 93%)で、前年より 516 トン減少している。輸入量の国別割合は、ベトナムが 2,363 トンで 34%と最も多く、次いで中国が 2,286 トンで約 32%、マレーシアが 1,521 トンで約 22%、インドネシアが 669 トンで約 10%、となっている。



3 薪

薪は飲食店や家庭用のストーブ等で使用されているほか、近年ではキャンプでの需要が増えている。また、役場庁舎や学校、温水プールなどの公共施設に木質バイオマスボイラーが導入されるなど、薪を利用する施設が増加している。

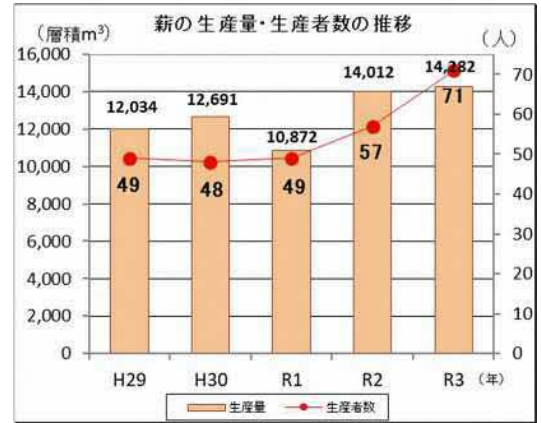
(1) 生産量

令和3年の薪生産量は、14,282立方メートル(前年比102%)で、前年とほぼ同等の生産量となった。

地域別では、十勝、上川、石狩、胆振、後志地域が主産地となっている。

(2) 生産者数

令和年の生産者数は71人(前年比119%)と前年より14人増加している。



4 山菜類

北海道で生産される山菜類は天然物の採取が主体で、全国的には盛んに行われている人工栽培の割合が低いため、天候の影響により生産量が大きく左右されるという特徴がある。

北海道で生産されている主な山菜は、「ふき」、「うど」、「ねまがりたけ」、「わらび」で、その他、「ギョウジャニンニク」、「たらのめ」、「ごごみ」なども生産されている。

(1) 生産量

令和3年の主な山菜類生産量は608トン(前年比93%)で、前年より45トン減少している。

品目別では「ふき」が559トン(前年比89%)、「ねまがりたけ」は5トン(前年比83%)、「うど」が6トン(前年比75%)、「わらび」が3トン(前年比75%)と全て前年より減少している。

地域別では、「ふき」は十勝、オホーツク、空知地域、「うど」は空知、オホーツク地域が主産地となっている。

(2) 生産額

令和3年の主な山菜類の生産額(推計値)は、約1.9億円(前年比93%)で、前年より約1千3百万円減少している。

(3) 生産者数等

令和3年の主な山菜類の実生産者数は11人と前年より2人減少している。

